

広島市腫瘍登録—初期の活動

馬淵 清彦

放射線影響研究所疫学部

広島市の腫瘍登録は、1957年に発足、その一年後に開始した長崎市腫瘍登録とならび、40余年に及ぶものである。米国のコネチカット州を初めとするガン登録の先駆者にはとても及ばないが、我国ではもっとも長い歴史を持つものに属する。今回はその初期の歴史に触れてみたい。広島・長崎登録はいずれも地元の医師会と放影研の前身であるABCCによる共同事業として発足、運営されてきた。いまでは、両地域住民をベースとした登録として広く認められているが、その設置にあたっては、原爆被爆者におけるガン罹患に対する関心が主な動機であったことは驚くにあたらないであろう。

広島・長崎に原爆が投下されたのは1945年だが、現在の形の固定集団コホートを対象とした長期の疫学調査が開始されたのは1950年中頃である。原爆投下後に開始した初期のABCCは、多くの医学調査に携わっていた。その中でも、広範な遺伝学調査や、白血病調査は顕著な成果をあげていたが、その他の研究活動からは芳しい結果が得られていなかった。その理由は、多数の研究者が研究興味ごとに多くの別々の集団を対象として、それぞれ異なった方法で研究が行われていたためであった。このような状況で、ABCCの閉鎖の話も持ちあがり、研究プログラムの評価が行われることとなった。そのため、当時ウイスコンシン大学のフランスス疫学教授を中心とするフランス委員会が設立された。この委員会の勧告により、研究を統合して原爆被爆者と対照群を含む固定集

団を作り、放射線量を推定、日本の戸籍制度を利用しての長期死亡調査をする、と言う今日のコホート研究体制が設立されることとなった。死亡調査では、その開始を1950年に遡って、観察が行われ、これが「寿命調査」の骨格となった。「寿命調査」と名づけられた背景には、放射線が一般的な「加齢」を促進すると言う当時の見方が根底にあったと考えられる。

更に、上記のフランス委員会は、死亡票から得られる情報の精度に関する懸念から、剖検プログラムのほかに腫瘍登録を考慮することも勧告していたが、腫瘍登録事業を推進することとなったもう一つの重要な背景を見逃してはならない。当時、被爆後の白血病増加について疑いの余地はなかったが、被爆約十年の時点で固形ガンの増加を示唆するデータが発表され、その真偽は論争的であった。被爆距離別にみたガン死亡率の分布に差が見られたが、初期の寿命調査コホート死亡データからは、固形ガンリスクの上昇を示す証拠が乏しかった。このような状況で、さらに診断精度の高い腫瘍登録データに興味を持たれることとなった。ABCCは広島・長崎の医師会と共同して腫瘍登録事業を設立、病院からのデータ収集活動により、初期数年間の広島罹患データがまとめられた。まもなく論文として発表されたデータは、放射線による固形ガン増加を明らかに支持するもので、当時の論争に一つの決着をつけるものとなったと言えよう。このような初期の活発な活動にもかかわらず、その数年後、広島腫瘍登録事業はさまざまな事情からスランプに陥り、腫瘍登録サークルから一時立ち去ることになるのである。(以下次号)

厚生省がん登録実務者研修

津熊 秀明

がん登録実務者研修コースが、国立がんセンターで毎年2回開かれています。厚生省健康政策局が主催し、各都道府県保健福祉担当部(局)の担当課が受講希望者を厚生省へ推薦します。所定の様式に所属施設長の推薦文が必要です。地域がん登録課程は、来年1月25-29日を予定。厚生省への推薦締切日は本年10月30日。受講料は無料。旅費宿泊費は受講生施設負担。受講希望者は早めに担当課にお問い合わせ下さい。

参考 平成9年度がん登録実務者研修地域がん登録課程

曜日	午 前				午 後			
月	開講式	わが国のがん対策とがん登録	地域がん登録の目的と組織	世界のがん登録	人体解剖学とICD-10, ICD-O-Tの構成		腫瘍病理学とICD-O-M(2)の構成	
火	必要情報と情報源		進行度分類、報告書作成 届出精度向上の工夫		肺がんの診断と治療	乳がんの診断と治療	泌尿器、男性性器がんの診断と治療	
水	中央登録室の作業と精度		地域がん登録の電算機システム		白血病・悪性リンパ腫の基礎と臨床	頭頸部がんの診断と治療	脳腫瘍の診断と治療	胃・大腸がんの診断と治療
木	罹患数の定義と罹患率計算		統計学の基礎		婦人科がんの診断と治療	部位及び病理組織のコーディング(実習)		
金	予後調査の実際、生存率の計算方法と精度		がん疫学入門		がん登録資料の利用規定、情報の保護、地域がん登録に関するQ&A		評価・反省会	終了式